

アトリエ 琉游舎 だより 110号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2021年7月28日発行

有縁無縁の精霊を想い感謝する日

お盆施餓鬼法要

8月15日(日)10時半から

- お盆は祖先の霊を供養する行事です。この期間には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆踊り、精霊流し、迎え火、送り火などの様々な行事が営まれます。日本人古来の祖先への感謝と供養の気持ちが仏教の考えと融合し今も生活の中に定着しています。
- 施餓鬼会は貪り苦しむ餓鬼に対し飲食を施し、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養する法要です。自分の命はすべての生命と繋がっていることを自覚し、自らの欲や貧りを反省するとともに生きとし生けるものすべてに感謝し思いを巡らす大切な法要です。
- 琉游舎ではお盆と施餓鬼会を融合して「お盆施餓鬼法要」を行います。有縁（親や祖先）の精霊だけではなく、有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。
- 一年に一回、自分の近い故人や祖先に思いをめぐらし感謝し、また永遠の過去から永遠の未来までの、有縁無縁の精霊を思い感謝し供養する日にいたします。また受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、有史以来亡くなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしたいと思えます。
- 新型コロナ禍の終結も合わせて祈念していきます。ただ祈念すれば何事も叶う訳ではありません。ましてやコロナ退散法要をしたからと言って心配無用などと言うことは全くないことは明らかです。大切なことは神仏にお願いすることではなく、私たちが「願い、誓い、行う」ことです。家内安全息災延命などを**願い**、有無両縁の精霊の前で願いを**誓い**、日々の生活の中で願いのままに**行う**ことが、私たちが法要を行う真の意味であり目的です。
- 琉游舎はすべての宗派・宗教にもオープンに開かれた場所です。仏教だから日蓮宗だからとのご懸念は無用です。私達の祖先を想い、広くすべてのいのちに感謝し、これからの平和と安寧を願う方であれば、どなたでもお越し下さい。一緒に祈念いたしましょう。

読書会

日蓮の「立正安国論」と
 消息文を読みます。テキ
 ストもすべてご用意。

8月10.24日
 火曜13時半

写経会

般若心経・自我
 8月1日(日)偈・観音偈の手本
 13時半 を用意しています。

8月1日(日)
 13時半

原爆写真展

8月7日(土)8日(日)

居酒屋の会と詩話会は
 しばらくお休みです

8/5 木	13時半	殺人カメラ (80分)	ロベルト・ロッセリーニ監督。撮影すると写真に写った人物が死んでしまう。殺人カメラで悪事を働く輩を懲らしめるが、次第に善悪の判断を見失っていく写真屋の主人。
8/12 木	13時半	イヴの総て (138分)	ベテラン女優の付き人から人気女優になるまで、ある女の策略を描いた愛憎ドラマ。 アカデミー賞作品層受賞作。M・モンローは端役ながら新人女優を好演。
8/19 木	映画会お休み		
8/26 木	13時半	拳銃魔 (87分)	射撃の腕を生かし軍で銃の指導をしていたバート。軍人をやめて帰郷したある日、見世物の巡業団で射撃の名手として活躍していた美女アニーに出会い、惹かれ合うが、
9/2 木	13時半	金曜日のテレザ (87分)	ヴィットリーオ・デ・シーカ監督。小児科医のピエトロは借金返済のため孤児院の担当医となり、勝ち気な美少女テレザと出会う。

鎮魂の季節が今年もまたやって来ました。原爆が投下され止めるに止められなかった戦争が終りを迎えることが出来たのは、暑い夏が鎮魂の季節だったからに違いありません。政治や経済的な利害を合理的に判断すれば本土決戦や一億玉砕ばかりか、米国相手に戦争をはじめることすら不可能です。始めたものを終らせられなかった日本人のあの暑い夏の日を終らせた主体は、幾ばくか心底に残されていた鎮魂の心なのです。

”心身一如“が西洋思想に出会うまでの日本人の有るべき様と考えるならば注1、科学と精神を分離した心身二元論の合理主義に出会ってからは、”心身はひとつ“ではなく対概念と見て行動した方が政治的経済的に優位に立てることを知りました。その実践が明治維新から今へと続く日本の近代化なのです。経済力は国力を測る大きな指標です。資源、技術、人口、機械化などを数値化すれば客観的な国力が出てきます。ただ権力者はそこに日本人だけに通用する主観的な係数を掛けます。これが大和魂や天皇万歳です。近代化を推し進める彼らは客観的数字では優位に立てない部分を日本人だけが持つ行動原理で補うことを考えました。”心身一如“の悪用です。心（大和魂）が勝っていればどんなに身（体格や経済力）が劣っていようが必勝であるとする主観的精神論です。日本の近代化は、精神と科学を別の問題として合理的に分離する心身二元論ではなく、精神の下に科学を従属させる、一如と似て非なる心身一元論を発明しました。心身が共棲しお互い様と寄り合う間柄が破綻してしまい、魂は安らぎの場であった身体からの離脱を余儀なくさせられました。身体を失った彷徨える魂はつかの間の安住の地を探し求め、”神国日本“の幻の灯に吸い寄せられて行ったのです。

鎮魂は例えば「戦死者を鎮魂する慰霊祭」などのように、死者の靈魂を慰め鎮めることと思われていますが、死者の魂に限らず、生者の魂(心)を落ち着かせ鎮めることが本義です。肉体から遊離しようとする魂や、遊離した魂を肉体に鎮めること、あるいは活力を失った魂に活力を与えて再生することが、鎮魂（たましずめ）です。私たちが死者の魂に安住の場所を作り祀って鎮魂する行為は、先祖の魂が私たちを守護してくれていると信じているが故の行為です。逆に行き場のない魂は怨霊となって人びとに禍をもたらします。死者の魂に限らず私たち生者の魂も事情は同じです。人は自分の魂(心)の安住の場を見つけられず悩み苦しみます。仏教で言う”一切皆苦“です。生きることそのものが「苦」であるならば、そこから抜け出そうと、哲学や宗教やスポーツやエンタメなど、各々にふさわしいより所を頼りに「苦」に打ち勝つ日々を送っていくことになるでしょう。私たちの毎日は、各々が魂の安住の場所を探し求め続ける日々を生きるということなのです。そして魂の葛藤を解消し安らぎを与えていこうと毎日を生きること、それが鎮魂ということなのです。

原始仏典によれば、お釈迦様は「霊の問題は語っても意味のないこと、それは答えの出ないことだから語らないことにする（無記）」と述べました。仏教は自己を煩惱から解放するための教えですから靈魂がどうか悪霊がなにとかなどの宗教とは一線を画し、あくまでもありのままに観る因縁縁起の世界だけを対象とした宗教でした。しかし現在の日本では仏教は主に靈魂を供養する宗教だと考えられ、死後の世界には極楽があるという思想が主流となっています。しかし諸法無我の教えに従えば、私の死後に存続する私の精神的主体（霊）はないと言う結論に達します。ここで大切なことは”私“の靈魂というものはどこにもないと言うことです。それを固有名詞の靈魂が存在するかのように信じ込まされ「大切だった誰々の霊を供養しましょう。あなたが死んだらその靈魂は極楽に住まうことができるのです」という仏教者にあるまじき言辞を弄るのです。靈魂は存在します。しかしそれは私の靈魂でもあなたの靈魂でもありません。靈魂は法華経が語る「永遠のいのち」となって私の中にもあなたの中にも生き続けるのです。永遠の過去から引き継がれた「永遠のいのち」を私たちの心身が引き継ぎそして永遠の未来へ引き渡すこと。それが鎮魂ということなのです。

1945年8月、死者の魂は“神国日本”が鎮魂の場所ではないことに気付き、もはや守護する気も失せてしまい、生者の魂は身体が受ける現実の苦痛(悲惨な生活)の前に茫然自失。日本中は彷徨える魂で溢れかえってしまいました。そして鎮魂の8月がやって来ました。永遠のいのちとして引き継がれるはずの魂がもはやここまでと観念して悪霊と化す間際に、何が人びとに鎮魂の心を目覚めさせたのか、一閃の光芒か、瓦礫の山か、餓鬼の群れか、戦争を知らない子供たちである私には具体的な理由は分かりません。ただ私の中に引き継がれた永遠のいのち（鎮められた魂）はこう語るのです。“8月の灼熱の太陽に灼かれて魂が消滅し、ここまで受け継いできた永遠のいのちをここで終らせるわけにはいかない。このいのちをしっかりとつなげて欲しい”魂たちのこの切実な願いが今私の中に生きています。これが8月を鎮魂の季節と私が語る唯一の理由です。

76年前、鎮魂の場と信じられた“神国日本”は、悪霊製造工場だとバレてしまい崩壊しました。震災やコロナ禍や格差拡大で不安な私たちの魂に、2021年の日本は五輪を鎮魂の場としました。心身の安らぎの場であれば祭は鎮魂にふさわしい場です。今、不安な魂は安全と安心に安らぎを求めています。安全は科学的な根拠で測る客観的な状態、安心はその安全を受け入れて心が安らかになることです。安全は科学で安心は精神の分野です。私には”安全安心の五輪“と聞く度に、国力でかなわない米国へ大和魂で戦争を仕掛けた神国日本の姿が重なります。安全だから安心”ではなく”安心だから安全“だと言っているだけです。この“安心教”念仏は、神国日本は必勝と唱えていることと何ら変わりません。鎮魂の祭だと思ったら悪霊琉游舎：戸井 出琉・恭子祭で私たちの魂は踊らされているだけ。さて祭りの後は、踊りを止められないままに踊り狂う8月か、あの76年前と同じ鎮魂の季節となるのか。

注1: 「五輪書」宮本武蔵「不動智神妙録」沢庵和尚など剣法書に見られる根本思想。

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

メール：toi10lizuru@outlook.jp